

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

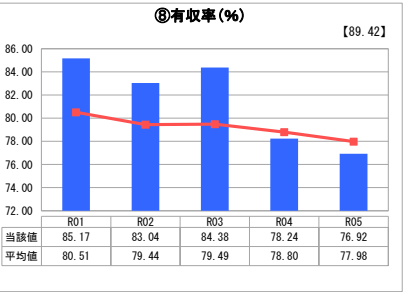
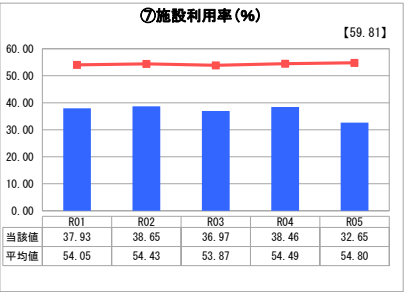
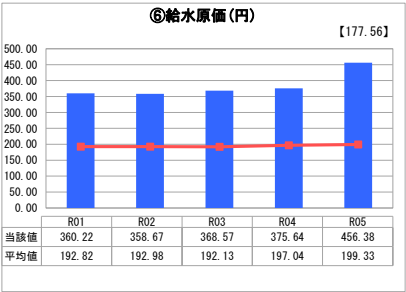
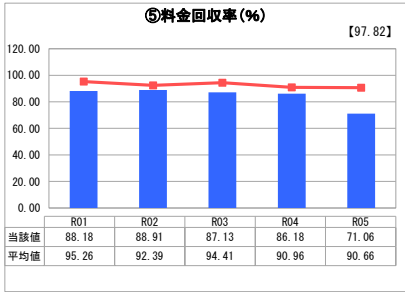
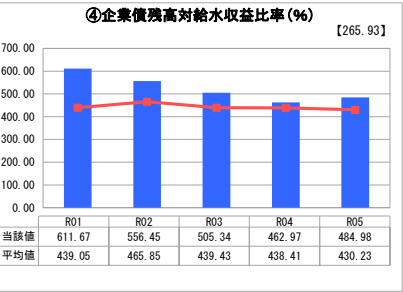
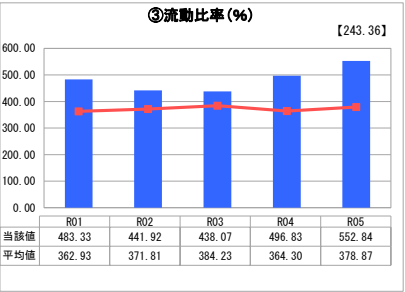
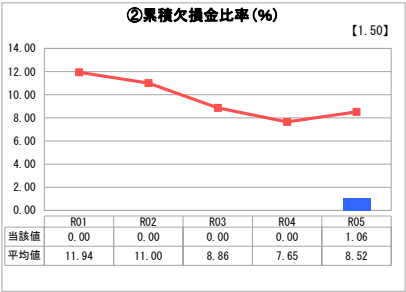
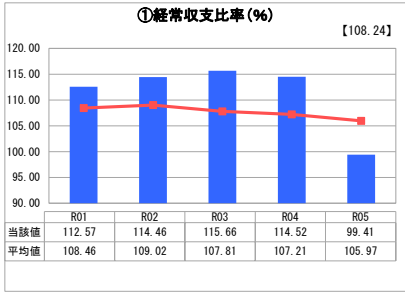
石川県 珠洲市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	80.22	85.64	5,423	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
12,574	247.20	50.87
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
10,295	70.92	145.16

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

令和6年能登半島地震により給水人口や有収水量が減少している。今後においても水需要の伸びは期待できず、この傾向は続くものと考えられる。

そのような中、①経常収支比率は100%を切り、単年度の収支が赤字であることを示しており、②累積欠損金が発生している状態であるものの、③流動比率は、1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金がある状況を示す100%を大きく上回っていることから、短期的な経営の健全性は保たれている。

④企業債残高対給水収益比率は、類似団体の平均値より高い値が続いているため、今後も給水収益の減少が見込まれる中、企業債残高を減らしていくことが必要である。

⑤料金回収率は、100%を下回っており、給水収益だけで給水に係る費用を賄っていない状況にあり、不足額を一般会計からの補助金で賄っている状況にある。

⑥給水原価は、増加傾向にあり、類似団体の平均値を大きく上回っているため、維持管理費の削減等の経営改善が必要である。

⑦施設利用率は、類似団体の平均値より低い値が続いているため、施設のあり方の見直しが必要である。

⑧有収率は、漏水等により例年より低下している。今後も老朽管の更新を進め、引き続き有収率の向上に努める。

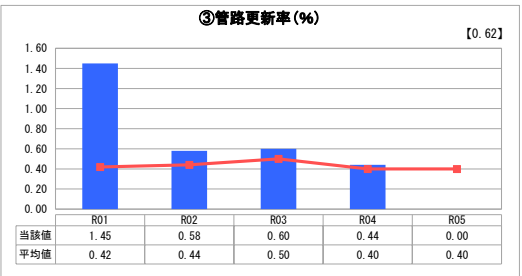
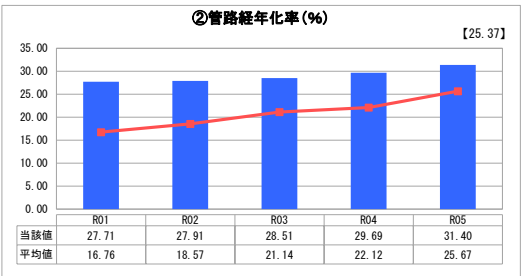
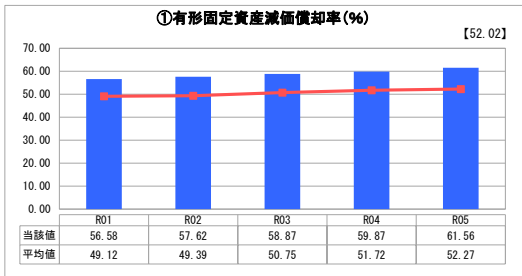
### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率及び②管路経年率は、類似団体の平均値より高い値が続いており、法定耐用年数に近い資産や経過した管路を多く保有している状況にある。

また、③管路更新率の減少は、令和5年5月と令和6年1月の地震により更新工事ができていないことによる。

後は、災害復旧と併せて老朽管を順次更新していく予定である。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

経営の健全性を示す指標は、大きく悪化しているものではないが、長期的な視点で見ると、給水人口の減少に伴う給水収益の減少傾向が続くとともに、施設の改修費の負担が経営に大きく影響してくるものと考えられる。

また、老朽化の状況を示す指標は、類似団体の平均値より高い値にあり、老朽化した施設や管路を多く抱えている状況にもあり、今後、災害復旧と併せて、施設の改良や管路の更新を順次進めていく予定である。